

2019年10月12日

## キャリアバトンの活動について

観光経営学部 大内 齋之

これは、「就職体験記」でもなければ「就職報告会」という名の付いたイベントでもなく、就職が決まった4年生が後輩のために開いたイベントです。観光経営学部にとっては初めての卒業生となる女子学生がこのイベントを企画しました。

このイベントは「キャリアバトン」と名付けられています。私はこのイベント名に「バトン」とつけた意義に感動しました。

就職をする相談場所や職員は、学内配置され職員も親身になった相談に応えてくれています。しかし観光経営学科は、先輩がいない中、手探り状態で就職活動を行ってきたことを、観光経営学科の学生は報告していました。そうした自分たちの経験知がバトンであり、学年上下、タテのコミュニケーションである解釈できます。

コミュニケーションはもう一つありました。それは、学科間のコミュニケーションです。

このイベントには、観光経営学科だけでなく、経営情報学科、スポーツマネジメント学科の学生も参加しています。いわゆる横のコミュニケーションです。普段あまり交流のない3学科の学生が、自分たちが経験してきたことを後輩のために協力して、バトンを手渡そうとするイベントが、この「キャリアバトン」なのだと思います。

「キャリアバトン」のイベントがどのように進められたのか、少し説明します。参加した4年生の内訳は、観光経営学科から女子2名、経営情報学科から女子1名、スポーツマネジメント学科から男子1名です。下級生として参加したのは、全員が2年生です。その2年生をテーブル4つに分けて座ってもらい、4年生がそれぞれのテーブルで6分ずつ2年生に自分たちの就職体験話や仕事に対する考え方、人生観などについて、スケッチブックに手書きの図や表を書いたものを見せながら、言うなれば紙芝居のような形式で説明していくというも

のです。

話は逸れますが、ワールドカップラグビーは予想を超える反響があり、盛り上がりを見せています。ラグビーは、前にボールを投げることは、「スローフォワード」として反則です。したがってラグビーは手によるパスは、後ろの選手に行われなければなりません。敵の陣地に入り込み、最後はトライまでに行くには、ボールを後ろに投げ続けなければいけないのです。ボールを持って走って、タックルされてつぶされ、また後ろの選手にパスをつなぐ、そうしたことで自分たちのボールは生かされ続けていきます。

この「キャリアバトン」を見学しながら、そんなラグビーのことを思いながら、学生の活動を聞いておりました。4年生は、イベントに参加した2年生に向かって、就職が決まったことについて自慢話をしているわけではありませんでした。また優越感をもって語りかけていたわけでもありませんでした。自分たちが苦しかったときのこと、自分たちができなかったことを切々話していました。

たった4人で始めた「キャリアバトン」ですが、非常に大きな意義が込められていると思います。それは、バトンを手渡すように後輩に先輩の経験を蓄積していくことだと感じたからです。まさに伝統はそうしたバトンの後輩に手渡すことで作られていくものと確信しました。そうした一見すると当たり前のような、それでいて忘れてはいけないことを思いださせてくれたのが、このイベントでした。このイベントを企画した学生から、そうした大事なことを教えてもらいました。

こうしたイベントを評価するとか、しないというレベルの話ではなく、素晴らしい学生が育っていることに誇りを感じた、イベントでありました。

## キャリアバトンに参加して（報告）

観光経営学部 渡貫 正治

観光経営学部 4 年の安達さんと笹田さんは、内定まで多くの苦難を乗り越え内定を勝ち取りました。この経験から得た知恵を後輩に話し、これからの就活に生かしてもらいたいと考えていたようです。理由は、彼らは観光経営学部 1 回生ということから就活について相談に乗ってもらう先輩がいなかったことで、アドバイスを得られなかったことが大変辛かった点にあったからと説明してくれました。キャリアバトンの報告会では、彼らに賛同した経営情報学部 2 名が加わりました。

この報告会では、時間がない中、4 人同じ書式で書いた紙芝居を通しての説明でした。就活に向けての事前準備、チャレンジする企業の絞り込み、面接での失敗事例、内定をなかなかもらえない辛さ、でも、内定を勝ち取るまでのへこたれない気持ちの持ち方、バイブル的な参考書等の紹介、その報告内容はリアルであり、後輩にはガツンと伝わったことだけでなく、後輩へのエールも感じました。

しかし、参加者は観光経営学部の 2 年生だけだったのが非常にもったいないと感じました。笹田さんは、最後に第 1 回と言っていたので、第 2 回 3 回と実施されることと思われませんが、ぜひ実施していただきたいと思います。3 年生に就活について確認したところ、既にプレッシャーを感じているようです。